

敬老祝いに伊勢えび料理

延岡、佐伯 観光協会がプレゼント 今月26日締め切り

延岡市と大分県佐伯市の両観光協会は、9月2日から始める「東九州伊勢えび海道・伊勢えび祭り2022」の関連イベント「長寿お祝いプレゼント」に応募を呼び掛けている。

敬老の日(9月19日)恒例の人気企画。はがきに、おじいちゃん、おばあちゃんにまつわるエピソードをつづり、住所、氏名、年齢、連絡先を記入して応募する。締め切りは今月26日(必着)。

9月上旬に抽選を行い、応募者の中から4人に「伊勢えび祭り2022」参加店で使える食事券(1万3000円相当)をプレゼントする。

宛先は「〒876-18585大分県佐伯市中村南町1-1、佐伯市観光協会(東九州伊勢えび海運事務局宛)」。イベントに関する問い合わせは延岡観光協会(☎延岡29・2155)または佐伯市観光案内所(☎0972・233400)まで。

記者手帳

2022・8・4

印象派を代表するフランスの画家クロード・モネの名前は日本でもよく知られている。随分前、岡山県倉敷市の大原美術館で「睡蓮」を鑑賞した。代表作でもあるこの絵は、大正中期に渡欧した日本人画家がモネ本人から譲り受けたという。

画家の名は児島虎次郎。出身地の高梁市成羽美術館によれば、東京美術学校で黒田清輝に学び、留学先の欧州では印象派の画家から手ほどきを受けた。妻は「児童福祉の父」と呼ばれた石井十次(高鍋町出身)の娘。日本初の孤児院の情景を描いた「ななさげの庭」などの作品を残す一方、倉敷の実業家大原孫三郎の支援を得てモネ、エル・グレコなどの絵画を買い付け、大原美術館の礎を築いた。

高鍋町美術館で「児島虎次郎 もつひとつの眼」展が9月11日まで開かれている。眼とはカメラ。およそ1世紀前に欧州などで撮影した写真約100点や油彩「登校」などを展示している。自邸の睡蓮の庭を案内するモネのスナップもある。浮世絵に影響を受け、日本の美を愛したモネは後半生をかけて睡蓮を描き続けた。日本風の大鼓橋が架かる庭と白いひげをたくわえた巨匠。出合いの瞬間を切り取った一葉は時代の貴重な資料でもある。

写真は遺族が大切に保管していたそうだ。100年前のものとは思えないほど劣化が少ないのは高い暗室技法を有していたからだろう。鑑賞するうち、画家のまなざしを持った写真家という虎次郎の「もつひとつの顔」が見えてきた。(谷口)